

DESIGNART
TOKYO

DESIGN&ART
FESTIVAL
2023

Press Release



DESIGNART TOKYO 2023

Report

10.20 Fri — 10.29 Sun

OMOTESANDO / GAIENMAE / HARAJUKU
SHIBUYA / ROPPONGI / HIROO / GINZA / TOKYO

デザイナートトーキョー

DESIGNART TOKYO 2023 REPORT

「Sparks ～思考の解放～」

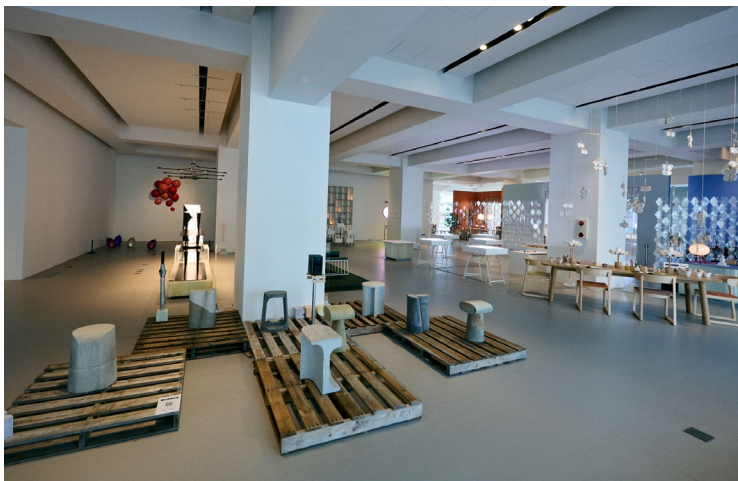
世界中からクリエイター・作品が集結。過去最大の108展示にのべ21万人が来場。

世界屈指のミックスカルチャー都市、東京を舞台に、デザイン、アート、インテリア、ファッションなどが多彩なプレゼンテーションを開催する日本最大級のデザイン&アートフェスティバルDESIGNART TOKYO（デザイナートトーキョー）。今年のテーマ「Sparks ～思考の解放～」のもと、108展示、83会場に世界中から作品・コンテンツが集結しました。来場者を含むクリエイター・作品が世界中から集結し、「東京の街が美術館となった10日間」のハイライトをレポートします。

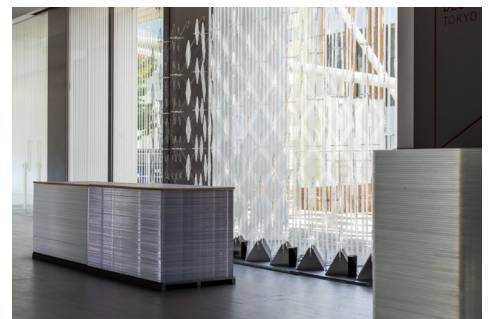
オフィシャルエキシビション

DESIGNART GALLERY

最新のデザイン・クリエイティブを堪能



DESIGNART GALLERY（手前の作品はRECONC）

OVER DUST for DESIGNART TOKYO 2023
Courtesy of Atsushi Shindo

<空間デザイン> 進藤篤

<協力> 乃村工芸社/日本取引所グループ/緑川化成工業/REMARE/NBCメッシュテック/
Benjamin Moore Japan/荒川技研工業

<協賛> Interoffice / SANLORENZO JAPAN

参加ブランド・クリエイター Muuto、SANLORENZO JAPAN (MOROSO・Paola Lenti)、Ambientec、RECONC、h220430 / Satoshi Itasaka、Denis Guidone x Y.S.M.、CURIOSITY、Tokio.、AMUAMI、Original Kolor Design、WASARA

国内外から集まった最新のクリエイティブを集めた展覧会「DESIGNART GALLERY」を開催。注目の若手デザイナー進藤篤氏による、コロナ禍で大量に消費され、行き場をなくしたアクリルパーティション板を再利用したインスタレーション「OVER DUST」が、約500㎡の空間を彩りました。また、Ambientecの照明が一同に並ぶAmbientec



Ambientec GALLERY

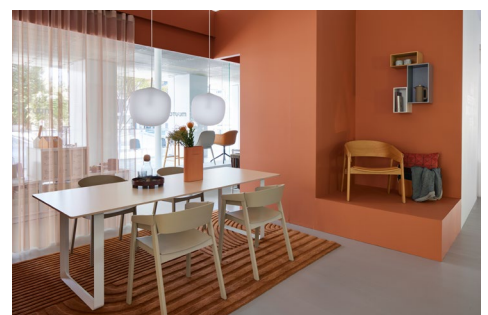
GALLERYやOriginal Kolor Designによる廃棄材料を使用したネームプレートのワークショップ、デザインとアートを横断した、見て楽しい紙の食器「WASARA」と家具メーカー「maruni」のパーティテーブル、伝統技術ディレクター立川裕大による、日本の技の粋を集めた「AMUAMI」のプロダクト、高度なテクノロジーと熟練の職人によって精密に製作されたTokio.の照明作品、デザインスタジオ・キュリオシティのグエナエル・ニコラによる、空間を作るオブジェのような家具コレクション「SEIDO」、制作過程で生まれるコンクリート素材の余剰を活かした「RECONC」の新しいツール beautiful surplus等の展示作品や、「B&B Italia」や「Paola Lenti」のアウトドア家具で構成されたSANLORENZO LOUNGEなど、連日最新のクリエイティブを体験し、楽しむ多くの来場者が見られました。



SANLORENZO Lounge



Tokio.



Muuto POP UP STORE

オフィシャルエキシビション
ASIA CREATIVE RELATION
 Powered by THE LIONS
アジアから未来のスターデザイナーが集結



ファサード前にはオフィシャルカーの新型クラウンCROWN“SPORT”およびCROWNを展示。会期中はDESIGNART TOKYOのロゴを纏った2台のCROWN“CROSSOVER”が東京の街を巡回しました。

<空間デザイン>石田建太郎

<協力> 株式会社ワールド/株式会社脇プロセス/株式会社緑演舎/株式会社星光技研/株式会社グリッド

<協賛>株式会社大京/トヨタ自動車株式会社

作品展示クリエイター ※アルファベット順

AtMa (日本) / Bumki Song (韓国) / CLEVERCLAIRE (韓国) / Curiosity (日本) / Dongwook Choi (韓国) / Funi Ding (香港) / Kairo Kusamoto (日本) / Kodai Iwamoto (日本) / OPEN OBJECT (中国) / PAN-PROJECTS + REMARE (日本) / Pili Wu (中国) / Ryosuke Harashima (日本) / SDANLEY DESIGN WORKS (台湾) / Shizuka Tatsuno (日本) / Studio Orijeen (韓国) / Takuto Ohta (日本) / Yosuke Matsushita (日本) / we+ (日本) / Zougei Hiroyuki Nishimura (日本)



Dongwook Choi 「Crest and Trough」

毎年、時代の先を行くテーマを設け注目を集めるオフィシャルエキシビション。今年は”A NEW HORIZON”をテーマに、2050年という未来を見つめ、アジアの未来のスターデザイナーが集結する展示「ASIA CREATIVE RELATION」を開催しました。キュレーターのスージー・アネッタ（アジア太平洋地域のデザインメディア「Design Anthology」創刊編集長）はデザイナーの作品を未来のライフスタイルの発展性—私たちが何と、どのように、なぜ、共に暮らすことを選ぶのかという問題を表す4つのチャプター「バイオモρφイズム (Biomorphism)」、「アップサイクル (Upycled)」、「新しいベル・エポック (New Belle Epoque)」、「未来の伝統 (Future Traditions)」に分類し、作品を展示しました。

会場は青山通りに面した全面ガラスのファサードを持つワールド北青山ビル。建築家石田建太郎氏により、都市的な空間に熱帯植物を約300鉢集められ、迫力ある自然環境を創出しました。石田氏は、テクノロジーの発展とともに人間らしい原始的な風景を取り戻してゆくことに期待し、敢えてこの自然環境という空間を提案しました。また、これらの植物は廃棄せず、終了後はマーケットの流通に戻していくという、好循環を生み出す空間づくりとなっています。



we+ 「Refoam」



THE LIONS JOURNEY 未知をゆくレジデンス展示ブース

また、今年4月にリブランドした株式会社大京のマンションブランドTHE LIONSは、「2050年。人生の価値を高める究極のマンションとは？」をテーマに、未来における新しい住まい方と、ウェルビーイングに生きるための次世代のビジョン「THE LIONS JOURNEY 未知をゆくレジデンス」を発表。海の上を旅し、常に発見と出会いにあふれた人生を送ることができる新しい移動型レジデンスは、革新的なテクノロジーで高い教育や医療も受けることができる、未来の自由な生き方を叶えます。会場では、このnoiz 豊田啓介氏とのコラボレーションによって生まれた具体的な建築ビジョン・住み方までのアウトプットを体験していただく展示を行いました。

「思考の解放」のテーマに沿った挑戦的な作品群

DESIGNART TOKYO 2023のテーマ「思考の解放」のもと、若いクリエイターの実験的、挑戦的な作品が際立ちました。今年は若手支援プログラム「UNDER 30」のエントリー数も大変多く、勢いを感じる年となりました。独自の思想で創造されたフレッシュな作品群を一部紹介します。



Gala Espel_Archaeology of the Future

Gala Espel Archaeology of the Future (UNDER 30)

ガラ・エスペルは、繊細な銀のフォルムに生命を与える、未来を志向する作品「Archaeology of the Future」を展示しました。職人ニコラ・マリシャエルとスーリヤ・マテューとのこのプロジェクトは、儚い自然を永遠に結晶化させることを可能にするオブジェ制作の画期的な試みであり、現在特許申請中の新しいデザイン手法である。時間によって浸食された容器に植物が巻き付く様や、金属棒の周りの化石化した貝殻など、精巧に鑄造された銀の造形物の表面には花が咲き、私たちを取り巻く世界を再認識させるデザインの永遠の力を示しています。

鈴木舞 「よしづくしを組む」 (UNDER 30)

“粋”の宿る伝統工芸「組子」を通じて「真の豊かさとは何か」を問う鈴木舞は、伝統工芸とテクノロジーを組み合わせ、未知なる可能性をデザイン。本展では「よしづくし」をテーマに、ポジティブな江戸っ子の粋な心のありようを表現し、伝統に敬意をもち、守り抜くべきものがある一方で、「よし」と一度受け入れてみることで未知なる可能性を探る組子のドレスや照明作品などが並びました。

MAI SUZUKI_MICHI KUMIKO ©REINA SAITO



ink couture project

21B STUDIO ink couture project (UNDER 30)

有村大治郎・コエダ小林・時岡翔太郎の3名によるデザインスタジオ。オフセット印刷機の廃インク清掃で使用した不織布を新たな素材として捉え、その可能性を見出すデザインプロジェクト。素材の成り立ちを「印刷」と「染め」の両側面を持つ「印刷染め」という新たな着彩方法として定義し、その魅力を探究したプロダクトを、「DESIGN TOUCH」開催期間中の東京ミッドタウンで発表しました。会場では、偶発的に生まれた美しい柄を用いた、読むように色を眺めるbookや、柄の魅力をトリミングしたアート作品としてオリジナルの額装を施したpictureなどが展示されました。

TOKYO ART INTERSECTION Vol.3 「Perspective of a Chair」

「TOKYO ART INTERSECTION」は、多様な分野で活躍するアーティストの作品が集い、重なり、共鳴する場として誕生。「椅子から見る思考のまなざし」をテーマに、Siin Siin、積彩、Sohma Furutate、Takuto Ohta、時吉あきな、沼田侑香、Rio Kobayashi等による様々な椅子の作品が、東京エリアの東京ミッドタウン八重洲に集いました。



TOKYO ART INTERSECTION Vol.3 「Perspective of a Chair」

「思考の解放」のテーマに沿った挑戦的な作品群



TATAMI ReFAB PROJECT

HONOKA TATAMI ReFAB PROJECT

100年以上経った今もなお、現役で使用されている煉瓦アーチが印象的な「日比谷OKUROJI」の情緒ある大空間で、サローネサテリテアワード2023 1st Prizeを受賞したデザインラボHONOKAによる、大型3Dプリント技術を用いて、畳を現代の暮らしに編み直すプロジェクト「TATAMI ReFAB PROJECT」が凱旋展示を実施。使い終えた畳や廃棄される原料を生分解性樹脂と混ぜ合わせ、新たな魅力の家具を制作。作品だけでなく、その製作プロセスから実際に使用した材料なども併せて展示され、注目を集めました。

田渡大貴 Nature or Nurture

アーティストの田渡大貴は、流木を「山と海の両方の時間を内包する複雑なプロセスを備えた素材」と捉え、それをもとに実験応用した新作のツールやテーブル等のプロダクトを製作。固有の生態系を持つ流木の可能性を感じさせる展示となりました。個性的な製作プロセスとデザインの作品は「DESIGN TOUCH」開催期間中の東京ミッドタウンにて、行きかう人々の注目を集めました。



Daiki Tado_Nature or Nurture



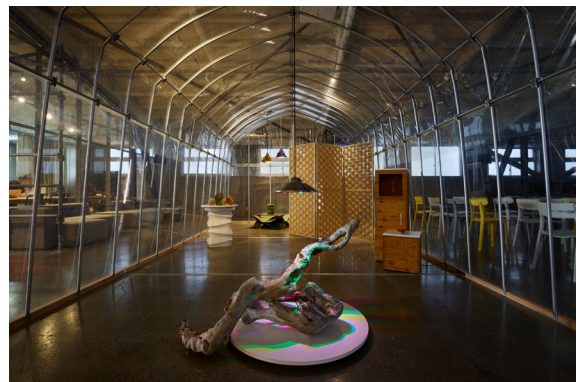
PHAT_BORDER

PHAT Wake(UP)

業種の異なるメンバーが、それぞれの視点から実験的な制作活動を行うデザインチーム”PHAT”が、使われなかった余剰資材の有り余る可能性を拾い上げて、インテリアピースとしての新しい価値を探索したシリーズ「wake(up)」を発表しました。作品のひとつBORDERは、扉や窓の材料として利用される中空ポリカーボネートの余剰資材を使用。透過性、断熱性、耐久性に優れたこの素材に、ガラス接着などに使用されるコーキング材を板材の両端溝に打ち込み接着することで、素材の連続した線を活かした継ぎ目が特徴となっています。余剰資材だからこそ見たこともない不思議な感覚を生み出し、空間にアクセントを与えるデザインとなっています。

積彩 / RGB_Light / DEW at 100BANCH

100BANCHでは、3Dプリントの有機的なデザインプロダクト「積彩」、彩る影をデザインする照明「RGB_Light」、線香花火のような照明「DEW」の3作品を中心に、アート×サイエンス、テクノロジー×デザインなど領域を超えてつくりあげるデザイン&アートの作品を展示しました。



100BANCH

アートコンシャスな照明作品

2023年は、従来の発想から一步踏み出した、アートのような佇まいの照明作品が数多く見られました。一部をご紹介します。



Balloon lantern

h220430 / Satoshi Itasaka Balloon lantern at DESIGNART GALLERY

デザイナー板坂諭は、今年の夏にイタリアのベネチアで風船をテーマとした個展を開催した際に、以前から制作したいと思っていたガラス製の風船をムラーノ島で製作。その最新作が展示されました。ムラーノ島のガラス職人の技術により、風船の口の部分の造形やLED光源を挿入するための開口寸法の精度も完璧な、思い描いていたガラス製の風船が実現。繊細なランタンが会場の空間を優しく彩りました。

So Tanaka vnsh at TIERS GALLER (UNDER 30)

So Tanakaは、「周囲を照らし、自らも光の中に消えていく照明」という発想をもとに「意識」や「関係性」に主眼を置いた新たな照明作品「vnsh」(ヴァニシュ)を展示しました。

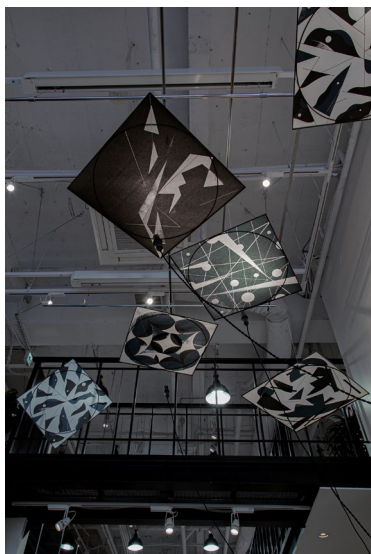
「vnsh」は、スリットを入れた直径5mmのパイプにLEDを内蔵することで、周囲を照らすと同時に自らも光の中に消えかかる照明器具。会場では、鑑賞者を「光」に対する固定観念の外に連れ出し、静謐ながら驚きに満ちた空間を作り出しました。



vnsh

HaKU Design Studio ø [ou] -Diversity of Light- at Omotesando Futonten

HaKU Design Studioは、灯りを多彩に表現するための仕上げとプリズム効果で、偶発的な視覚効果を生み出す照明ø [ou] を発表。日本文化の一つである「守破離」の思想を解釈し、3つの型で灯りを楽しむことができ、完成形をユーザーに委ねることで、光の多様性を身近に感じてもらえるようなアートファニチャーを展示しました。



POP CORN Fly a light "TAKO" Courtesy of the brand



ø [ou] -Diversity of Light -

POPCORN Fly a light "TAKO" at 文喫六本木

グラフィックデザイナーの石井侖と、金物作家でありプロダクトデザイナーの渡辺紘平によるユニット「POPCORN」は、風揚げの風情や高揚感に魅せられ、照明とオブジェという2つの要素を持つ作品「Fly a light "TAKO"」を発表。四季にまつわる日本特有の言葉からインスピレーションを得た図柄を手漉きの美濃和紙に表現した作品は、実際の風の様に空間に展示されたことで、会場の空間に広がりを持たせ、多くの来場者が上を見上げる姿が印象的でした。

美しい世界観に触れる感動のインスタレーション

Perrier-Jouët × Fernando Laposse – The Pollination Dance

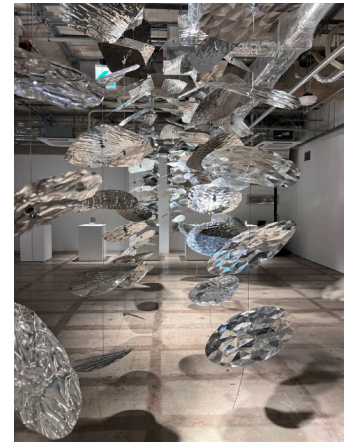


Perrier-Jouët × Fernando Laposse – The Pollination Dance

フランスのプレステージ・シャンパーニュメゾン『ペリエ ジュエ』は、10/12～10/29まで原宿駅前のWITH HARAJUKUに、「花は、すべてのはじまり。」をコンセプトとした、ブランド史上最大規模のPOP-UP「THE HOUSE OF WONDER by Perrier-Jouët」をオープンしました。その会場に、メキシコ出身のアーティストでありデザイナーのフェルナンド・ラポッセと、世界初公開のコラボレーションアート「The Pollination Dance」を展示しました。ラポッセはこのインスタレーションを通じて、自然をあらためて見つめ直すことの重要性を提唱。受粉のプロセスに焦点を当て、花の基本的な役割や植物と昆虫や動物との関係性を表現しました。また、花粉を表す黄色い砂が花束からゆっくりと流れ落ちる「花粉時計」の好ましくアナログな表現が作品に動きと相互性をもたらし、ゆっくり時間をかけて楽しんでいただける展示となりました。

NIPPON STEEL 「BLIK Redesign Exhibition」 ブリキのリデザイン展

人とコンテンツに焦点を当てたマイクロな複合施設『Keshiki（景色）』では、日本製鉄（NIPPON STEEL）とインダストリアルデザイナーの米田充彦（ATSUHIKO YONEDA DESIGN代表）が、ブリキ素材の新たな可能性に関するデザインスタディを通じて、その議論のきっかけを作り、鉄の環境優位性ととも新しいライフスタイルの在り方をリデザインする展示「BLIK Redesign Exhibition：ブリキのリデザイン展」を開催。会場ではブリキ素材のインスタレーションとともに製品のプロトタイプと鉄素材の環境情報が展示されました。



BLIK Redesign Exhibition



イヴ・サンローラン展 時を超えるスタイル 国立新美術館、2023年 展示風景
Courtesy of the brand

国立新美術館 イヴ・サンローラン展 時を超えるスタイル

国立新美術館では、イヴ・サンローラン美術館パリの全面協力を得て、没後日本で初めてのイヴ・サンローランの大回顧展を12/11まで開催しています。20世紀後半の偉大な才能「イヴ・サンローラン」から生み出される、唯一無二でありながら豪華絢爛な美の世界を、ルック110体のほか、アクセサリー、ドローイング、写真を含む262点によって、12章構成で余すところなく堪能いただける貴重な機会となっています。

富士フィルムデザインセンター 完成しないデザインスタジオ展（CLAY南青山開所記念）

常に進化し続けるという意味で『完成しないスタジオ』をコンセプトにした富士フィルムデザインセンターの新スタジオ「CLAY南青山」の開所を記念した内覧会。外観、空間、制作デスク、照明、サイン、エレベーター、マンホールに至るまで、普段は製品やサービスを手掛ける富士フィルムのインハウスデザイナー80名全員の手により「オリジナルでデザイン」された、ひとつの作品ともいえるデザインスタジオが、期間限定で公開されました。



The Design Studio That Will Never Be Completed _
CLAY Minami Aoyama Opening Exhibition

インテリア 歴史とクラフトマンシップを感じるプレゼンテーション



FLEXFORM Portraying Design Courtesy of the brand

FLEXFORM Portraying Design

今年4月にミラノで開催された、FLEXFORMのアイデンティティと個性を築き上げてきたシグニチャーフォトと、プロダクトを通してそのストーリーが語られる展示「Portraying Design」が、FLEXFORM TOKYOにて行われました。80年代から現代に至るまでの時系列に沿い、写真家4名によって撮影された広告キャンペーン写真の数々が大型パネルに再現され、FLEXFORMのタイムレスなスタイルを印象づける旅へと誘う、大胆なエキシビションとなりました。

DRILL DESIGN Collection / Claesson Koivisto Rune Collection at Time & Style Atmosphere

Time & Style Atmosphere では、ドリルデザインの最新作 Diamond backや、ウィンザーチェアをモチーフにしたプロダクトなどを公開。また、Claesson Koivisto Rune Collection (クラッソン・コイヴィスト・ルーネ) がHotel K5 Tokyoのために制作した照明プロダクト Drop paper lampをはじめ、未発表のラウンジチェアなど、日本の伝統技術と北欧の感性が融合されたデザインを堪能できる展示となりました。



Claesson Koivisto Rune



Carl Hansen & Søn Courtesy of the brand

Carl Hansen & Søn Japan office HOUSE OF CRAFT

一般公開は初となるカール・ハンセン&サンのおフィス会場に、クラフトマンシップ、選び抜かれた素材、そしてタイムレスなデザインを軸に生み出される、ハンス・J. ウェグナーの復刻作品を含むシェーカースタイルに焦点を当てたエキシビションを開催。また、同ブランドが長く向き合う自然素材「木」への敬意を込めて、アーティスト ニコラス・シュリーによる Wonders of Woodと題した木工アートが並びました。

STELLAR WORKS UNVEILS ITS NOVEL PRODUCTS AND NEW SHOWROOM

今年5月にニューヨークで開催された NYCxDESIGN 2023 で発表した新作をはじめ、クリエイティブ・ディレクターの Neri & Hu を中心とした、著名デザイナーによる STELLAR WORKS の個性豊かな製品により、異なる国や地域、文化や価値観を絆ぎ、現代的な視点で再編集した STELLAR WORKS 独自の世界観を堪能できる展示となりました。



STELLAR WORKS Courtesy of the brand

アート 注目の展覧会でアートを堪能

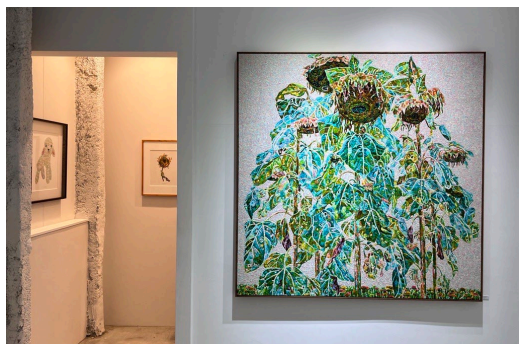
KOTARO NUKAGA

「Reflections of Spaces - Spaces of Reflection」展

KOTARO NUKAGA 六本木では、ドイツ出身のアーティスト、カンディダ・ヘーファアの個展「Reflections of Spaces - Spaces of Reflection (空間への反射—反射の空間)」を12/23まで開催しています。ヘーファアのKOTARO NUKAGAにおける初の個展となる今回は、彼女の代表作「Library」シリーズを含む大作を展示。「場所の概念を通して空間における力学を露わにし、その反映による新鮮なリアリズムの視点を提示します。



KOTARO NUKAGA



MA5 GALLERY

MA5 GALLERY by SANLORENZO

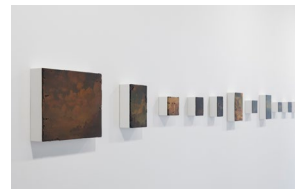
「PATTERN STROKE - 模様の筆跡 -」展

常に進化し続けるアート、デザイン、インテリアを発信するプラットフォームとして、SANLORENZO JAPANが運営する南青山のギャラリー「MA5 GALLERY」では、様々なパターンを使った独自の絵画様式を追究する画家、福津宣人の作品展示が行われました。模様で出来上がったパーツを貼り合わせて描く手法「PATTERN STROKE」の作品を中心に、作家が旅先で見たさまざまな景色を描いた作品を展示され、開催初日に行われたレセプションパーティをはじめ、会期中も多くの来場者で賑わいを見せました。

MAKI GalleryとGallery COMMONで 多田圭佑個展を同時開催

愛知県を拠点とするアーティスト多田圭佑の個展が、MAKI Gallery / 表参道とGallery COMMONにて同時開催されました。MAKI Galleryでは「Phantom Emotion」と題し、フィクションの世界と関わりたいという欲望や希望、同時に二つの世界に存在する確固とした断絶を突きつけられる切なさや孤独感が共存した《残欠の絵画》および《Heaven 's Door》シリーズを展示。

Gallery COMMONでは「Rhizomed Material」と題して、タイルや木製の床板、金属製の引き出しや鎖などがグリッチ状に組み合わせられて見える立体的な作品で、実際にはアクリル絵具のみによって作られている《trace/dimension》シリーズを展示。合わせて約100点を超える新作のペインティングで構成される、過去最大規模の展示となりました。



MAKI Gallery

Gallery COMMON



エコロジー：循環をめぐるダイアログ「新たな生」崔在銀 (チェ・ジェウン) 展 銀座メゾンエルメス フォーラム

銀座メゾンエルメス フォーラムでは、アートにおけるエコロジーの実践を問う「エコロジー：循環をめぐるダイアログ1「新たな生」崔在銀(チェ・ジェウン)展」を、2024年1月28日まで開催。環境や自然との対話を続けてきた一人の作家、崔在銀(1953年韓国・ソウル生まれ)の40年に亘る実践を、過去作と新作を織り交ぜながら個展形式で振り返ります。会場には崔が沖縄に赴いた際に浜へ打ち上げられた大量の死珊瑚を目の当たりにしたことをきっかけに制作された《白い死》と題された、死珊瑚を用いた圧巻の新作も展示されています。

トークイベントやワークショップなど多彩なイベントを開催

DESIGN TOUCH Talk Salon

Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2023にて10/14,15に開催された“DESIGN TOUCH Talk Salon”。「ニューアーバニズム 未来の暮らしかた」、「探求するクリエイティブリソース」の2テーマを、DESIGNART TOKYO × DESIGN TOUCHとして開催。前者では、変化する生活様式への対応や技術革新が詰め込まれる都市計画において、環境やコミュニティにどのような変化が起きていくのか。建築にとどまらないスケールで未来を捉える視点について語りました。後者では、コンディションを保つ機能を持つと共に自分を表現する手段のひとつにもなる洋服について、日本を代表する二人のファッションデザイナーの挑戦を通して、新技術の導入や身体性を越えた新しい「可能性」の現在地を探りました。

(主催：東京ミッドタウン・協力：DESIGNART TOKYO 実行委員会)



・10/14 「ニューアーバニズム 未来の暮らしかた」

豊田啓介 | 東京大学生産技術研究所特任教授/建築家
石田建太郎 | イシダアーキテクトスタジオ代表/東京工業大学 特任准教授
木田隆子 | ハースト・デジタル・ジャパン『エル・デコ』ブランド ディレクター

・10/15 「探求するクリエイティブリソース」

宮前義之 | A-POC ABLE ISSEY MIYAKE デザイナー
森永邦彦 | ANREALAGE デザイナー
川上典李子 | ジャーナリスト/21_21 DESIGN SIGHT アソシエイトディレクター



Today at Apple 表参道

Today at Apple 表参道 ASIA CREATIVE RELATION TALK

Apple 表参道では、会期中の10/24に、アジアのデザイン界に精通するスージー・アネッタと国際派クリエイターたちによるToday at Appleトーク「スージー・アネッタと考えるアジアが変えクリエイティブ産業の未来」を開催。伝統文化や工芸、建築、テクノロジー製品など世界に誇れる多様な産物を輩出してきた日本を含むアジア各国は、創造性を通じて、どのように連携し世界に貢献しているのか。クリエイティブ産業の活性化について、PAN PROJECTSの高田一正、フランス出身のインテリアデザイナー/プロダクトデザイナーのゲナエル・ニコラ、デザイナーのシン スダンリーが、スージー・アネッタとともに、実際のプロジェクトの紹介を通して示唆に富んだトークを行いました。

PechaKucha Night x DESIGNART Tokyo Special

10/25 にTHE CORE KITCHEN/SPACEにて“PechaKucha Night x DESIGNART Tokyo Special”を開催。この、会期に合わせた一年に一度のスペシャルイベントには、UNDER 30に選ばれた21B STUDIOやGala Espel、バリエージュにて作品を手掛けたFernando Laposse、そしてフェンダーミュージック株式会社の代表Edward Cole等がプレゼンターとして参加。テンポの良い「20枚の画像×20秒」のPechaKuchaフォーマットによる、豪華なスピーカーの多彩なクリエイティブが体験できる、大盛況のイベントとなりました。



PechaKucha Night x DESIGNART Tokyo Special
© Brian Scott Peterson



Espace Louis Vuitton Tokyo スペシャルワークショップ ©Takuya Yamauchi

Espace Louis Vuitton Tokyo スペシャルワークショップ

DESIGNART TOKYO 2023の期間中、「ルイ・ヴィトン 表参道店」7階のアートスペース「エスパス ルイ・ヴィトン 東京」にて、10月27日(金)と28日(土)の2日間、スペシャルワークショップを開催しました。開催中のケリス・ウィン・エヴァンスによる個展「L>espace」(...)の会場を舞台に、芸術の国、フランスをはじめとした世界各国で活躍する音楽家を講師にむかえ、作品からインスピレーションを得たユニークなプロジェクト「Constellation sonore - 音の閃光-」を実施。鮮烈な音のワークショップを開催しました。

インターナショナルな交流と活気が高まった10日間



レセプションパーティ © USAMIRYO



オフィシャルパーティ © Brian Scott Peterson

今年は本格的に渡航制限も空け、クリエイターを含む海外からの来日も多くなり、インターナショナルな交流と、会期中の街の活気の高まりを感じることが出来ました。開催初日のDESIGNART GALLERYでのレセプションパーティや、会期後半に、今年オープンし注目の「FENDER FLAGSHIP TOKYO」にて行われたオフィシャルパーティなどを通して、出展者、関係者を含む多くの方々の交流が行われました。

RECORD／実績 (2023.11.29現在)

- ・ 来場者数 のべ約214,500人
- ・ オンラインビュー数 (Web・SNS含む) 約195万ビュー (8/9 - 11/16)
- ・ メディア掲載数 562 (新聞 / 雑誌 / WEB / ラジオ / SNS)
- ・ 出展者数 108展示・127組
- ・ 参加クリエイター&ブランド数 約300名 (アーティスト、デザイナー、建築家、ブランドなど)
- ・ 会場数 83会場
- ・ マッチング数 60組

DESIGNART TOKYO 2023 開催概要

会期：2023年10月20日（金）～10月29日（日）

エリア：表参道・外苑前・原宿・渋谷・六本木・広尾・銀座・東京

主催：DESIGNART TOKYO 実行委員会

発起人：青木昭夫（MIRU DESIGN）／川上シュン（artless）／小池博史（NON-GRID）／永田宙郷（TIMELESS）／アストリッド・クライン、マーク・ダイサム（Klein Dytham architecture）

オフィシャルWEBサイト：<https://designart.jp/designarttokyo2023/>

SUPPORTER

J-WAVE 81.3FM

SPONSORS

THE LIONS

SANLORENZO

PAOLA
LENTI

CROWN

CHAMPAGNE
PERRIER JOUËT

Fender

新 THE NATIONAL
ART CENTER TOKYO
国立新美術館

YAMAHA
Make Waves

NODEA

WORLD

VENUE SUPPORTERS

interoffice

ARAKAWA

TOKYO MIDTOWN

SEIBU
渋谷
www.seibu.jp

OKUROJI

TOKYU PLAZA
SHIBUYA

DESIGNART TOKYO 実行委員会

107-0062 東京都港区南青山2-15-19 フジハイツ402
info@designart.jp <http://designart.jp>



facebook.com/designart.jp

取材・掲載のお問い合わせ

担当 小高妃登美 press@designart.jp



instagram.com/DESIGNART_TOKYO

イベントに関するお問合せ

2023exhibitors@designart.jp



twitter.com/DESIGNART_TOKYO